

## 財津理教授 研究業績

### 翻訳

ドゥルーズ『無意味について』(GILLES DELEUZE 《5 serie, du sens, 11 serie, du nonsens》) in 《Logique du sens》Minit 1969 共訳, 木田元, 雑誌『エピステーマー』Vol.4-5, 朝日出版社, 1978/06/01)

ゲーブザッテル『フェティシズムの現象学』(Gebaettel, V.E.F., 《Ueber Fetischismus》) in 《Prologomena einer medizinischen Anthropologie》共訳, 宮武昭, 雑誌『現代思想』Vol.6-9, 青土社, 1978/07/01)

ドゥルーズ『ヒュームあるいは人間の自然』(GILLES DELEUZE 《EMPIRISME ET SUBJECTIVITE》) PUF, 1953, p153 共訳, 木田元, 朝日出版社, 1980/05/25)

ドゥルーズ『マイナス宣言』(GILLES DELEUZE, 《UN MANIFESTE DE MOINS》) in CARMERO BENE, GILLES DELEUZE 《SUPERPOSITIONS》LES EDITIONS DE MINUIT, 1979, p85-131 単独訳, 雑誌『現代思想』Vol.10-15 1982/12/01)

オニール『言語 身体 社会』(J.O'NEILL 《SOCIOLOGY AS A SKIN TRADE》) Heinemann, 1972, p274 共訳, 須田朗・他, 新曜社, 1984/06/20)

レヴィナス『現代フランス哲学12講』(EMMANUEL LEVINAS 《RELIGION ET IDEE DE L'INFINI》) in 《DOUZE LEÇON DE PHILOSOPHIE》, MONDE, 1982 共訳, 浜名優美・他, 青土社, 1986/10/25)

ドゥルーズ『差異と反復』(GILLES DELEUZE 《DIFFERENCE ET REPETITION》, PUF, 1968, p403 単独訳, 河出書房新社, 1992/11/25)

ドゥルーズ／ガタリ「知覚を越えて, 芸術——哲学とは何か」(GILLES DELEUZE, FELIX GUATTARI 《QU'EST-CE QUE LA PHILOSOPHIE?》 LES EDITIONS DE MINUIT, 1991の一部, 単独訳, 雑誌『現代思想』Vol.22-14, 1994/12/01)

メルキオール『フーコー, 全体像と批判』(J.G.MERQUIOR 《FOUCAULT》, FONTANA PAPERBACKS, 1985, p183 単独訳, 河出書房新社, 1995/09/25)

ドゥルーズ「装置とは何か」(GILLES DELEUZE, 《Qu'est-ce qu'un dispositif?》 in 《Michel Foucault Philosophe》 Seuil, 1989 単独訳, 雑誌『現代思想』Vol.25-3, 1997/03/01)

ドゥルーズ／ガタリ『哲学とは何か』(GILLES DELEUZE, FELIX GUATTARI 《QU'EST-CE QUE LA PHILOSOPHIE?》 LES EDITIONS DE MINUIT, 1991, P206 単独訳, 河出書房新社, 1997/10/13)

ドゥルーズ『経験論と主体性』(『ヒュームあるいは人間的自然』1980年, 朝日出版社の全面的改訳, 共訳, 木田元, 河出書房新社, 2000/01/14)

『20世紀思想家事典』(誠心書房, 《THINKERS OF THE TWENTIETH CENTURY》 EDITED BY ELIZABETH AND DEVINE OTHERS, JAMES PRESS, 1985. サルトル, ソシュール, デリダ, パース, ベルクソンの項目の翻訳, 2001/10/31)

メルキオール『現代フランス思想とは何か』(J.G.MERQUIOR 《FROM PRAGUE TO PARIS》, Verso, 1986, p286 共訳, 荻原真, 河出書房新社, 2002/01/20)

ドゥルーズ『無人島1953-1968』(GILLES DELEUZE 《L'ILLE DESERTE ET AUTRES TEXTES》, LES EDITIONS DE MINUIT, édition préparée par David Lapoujade, 2002, p414 共訳, 宇野邦一・他, 河出書房新社, 2003/08/30)

ドゥルーズ『狂人の二つの体制1983-1995』(GILLES DELEUZE 《DEUX REGIMES DE FOUS》, LES EDITIONS DE MINUIT, édition préparée par David

Lapoujade, 2003, p383 共訳, 宇野邦一・他, 河出書房新社, 2004/06/30)

ドゥルーズ『シネマ 1 \* 運動イメージ』(GILLES DELEUZE 《CINEMA 1 L'IMAGE-MOUVEMENT》, LES EDITIONS DE MINUIT, 1983, p298 共訳, 齋藤範, 法政大学出版局, 2008/10/01)

モニク・ダヴィド＝メナール『ドゥルーズと精神分析』(MONIQUE DAVID-MENARD 《DELEUZE ET LA PSYCHANALYSE》 PUF, 2005, p182 単独訳, 河出書房新社, 2014/9/30)

## 著作

『新岩波講座哲学 9 身体 感覚 精神』(岩波書店, 共著 木田元・他, 1986/07/10)

『哲学』(メヂカルフレンド社, 共著 木田元・他, 1991/02/25)

『言語哲学の地平』(夏目書房, 共著 前田英樹・他 1993/11/20)

『ドゥルーズ横断』(河出書房新社, 共著 松浦寿夫・他 1994/09/30)

『時代を生きた人々』(御茶の水書房, 共著 八木清治・他 2001/10/15)

『ドゥルーズ』(河出書房新社, 共著 宇野邦一・他 2005/10/30)

『基礎講座 哲学』(筑摩書房, 共著 須田朗, 他 2016/4/10)

## 論文等

「ドゥルーズと論理学」(雑誌『エピステーメー』 Vol.4-6, 1978/07/01)

「懐疑と〈コギト・エルゴ・スム〉」(中央大学哲学科『紀要』通巻121号, 1986/03/30)

「デカルトの『省察』の（共同作業による）批判的註解とその基本的諸テーマの問題論的研究」（昭和60年度文部省科学研究費補助金による研究成果報告，財津担当 84-95頁，1986/03）

「物体落下の法則をめぐる二つの誤解—デカルトの初期草稿における思想（1）」（中央大学哲学科『紀要』通卷一二九号，1989/03/30）

「落体の運動に関するデカルト的理解の動揺—デカルトの初期草稿における思想（2）」（中央大学哲学科『紀要』通卷第一四一号，1990/04/10）

「ジル・ドゥルーズとポスト構造主義」（中央大学雑誌『白門』44/2，1992/02/01）

「フランスの思想的現在」（雑誌『神奈川大学評論』第13号，1992/11/30）

「ドゥルーズとニーチェ」（雑誌『思想』岩波書店 No.855，1995/09/15）

「差異の観点によるドゥルーズのベルクソン解釈」（『武蔵大学人文学会雑誌』第31巻第1号，1999/11/15）

「ドゥルーズ固有の哲学とは何か？（一）」（雑誌『情況』第3期第4巻/3，2003/04/01）

「ドゥルーズ固有の哲学とは何か？（二）」（雑誌『情況』第3期第4巻/7，2003/07/01）

「ドゥルーズ固有の哲学とは何か？（三）」（雑誌『情況』第3期第4巻/11，2003/12/05）

「ドゥルーズ固有の哲学とは何か？（四）」（雑誌『情況』第3期第5巻/11，2004/06/01）

(研究ノート)「謡曲『隅田川』における言葉遣いの諸特徴(1)」(法政大学『経済志林』78/2, 2010/10/30)

(研究ノート)「ジャック・ラカン『《盗まれた手紙》についてのセミナー』の翻訳と注釈(1)」(法政大学『経済志林』78/4, 2011/03/30)

「志賀直哉と夏目漱石は西洋思想をどのように内化したのか 序論」(法政大学『経済志林』80/3, 2013/03/15)

「『差異と反復』の解析と再構成の試み—— 1 ——」(法政大学 法政哲学会『法政哲学』第一三号, 2017/03)

(翻訳)「ジャック・ラカン『《盗まれた手紙》についてのセミナー』の翻訳(1)」(法政大学『多摩論集』第34号, 2018/03)

## 講演

「ニーチェとドゥルーズ」(日仏哲学会平成6年度秋期大会, 1994/09)

「フーコーとドゥルーズ」(法政大学文学部学術団体哲学会現代思想研究会, 1995/11/20)

「ドゥルーズの差異哲学—フランス現代思想の最先端—」(武蔵大学公開講座, 1996/03/07)

「ドゥルーズと哲学」(早稲田大学哲学会研究発表会, 1996/06/19)

「映画のイメージの世界でドゥルーズは哲学する」(早稲田大学交域哲学研究所講演会, 2006/11/30)

《Le rapport de l'image-temps avec la synthèse du temps chez Deleuze》  
 (Bergson, extrême-orientable, Lire l'Evolution créatrice en Asie de l'Est,  
 Ambassade de France au Japon, Société japonaise d'études bergsoniennes,  
 Université Hosei, Université Meiji, 2008/10/10)

「ドゥルーズの時間論——『差異と反復』と『シネマ2』にそくして——」(法政  
 哲学会, 2014/6/14)

「『差異と反復』と『アンチ・オイディプス』における欲望の概念」(日本ラカン協  
 会第15回大会, 2015/12/13)

## その他

(書評) ジル・ドゥルーズ著, 中島盛夫訳『カントの批判哲学』(『週刊読書人』第  
 1574号, 1985/03/18)

(書評) ピエール・マシュレ著, 鈴木・桑田訳『ヘーゲルかスピノザか』(『週刊読  
 書人』第1626号, 1986/03/31)

(書評) ドゥルーズ／ガタリ著, 市倉宏訳『アンチ・オイディプス』(『週刊ポスト』  
 864/18-33, 1986/08/15)

(事典項目執筆) 「延長」「コギト・エルゴ・スム」「情念」「機械論」(『哲学・思想  
 コーパス事典』日本実業出版, 1987/01/10)

(事典項目執筆) 「ア・プリオリ/ア・ポステリオリ」, 「一元論/二元論/多元論」,  
 「コギト」, 「実体/属性」, 「実念論/唯名論」, 「主観/客観」, 「超越/内在」, 「デカル  
 ト主義」, 「パトス/ロゴス」, 「唯心論/唯物論」, 「利己主義/利他主義」(三省堂『コ  
 ンサイス20世紀思想事典』, 1989/04/20)

(評論) 「ニーチェ『悲劇の誕生』」(『中央大学新聞』第1073号, 1989/05/25)

(評論)「書き込みを待つカオスマス」(『翻訳の世界』通巻204号, 1993/02/01)

(事典項目執筆)「ポスト・モダン」, 「現象学」, 「記号学」(時事通信社『時事ニューズワード1993-1994』, 1993/06/15)

(書評) ジル・ドゥルーズ著, 鈴木雅大訳『スピノザ』(『週刊読書人』第2038号, 1994/06/17)

(評論)「未来へと射る矢」(『週刊読書人』第2112号, 1995/12/01)

(報告)「ドゥルーズによる概念としてのデカルト的コギト」(『現代思想』Vol.24-1, 1996/01/01)

(書評) フェリックス・ガタリ著, 杉村昌昭監訳『闘走機械』(『週刊ポスト』1329/28-10, 1996/03/15)

(報告)「ドゥルーズの思想の生成変化」(『批評空間』II-9, 1996/04/01)

(共同討議)「ドゥルーズと哲学」(『批評空間』II-9, 共著 蓮實重彦, 浅田彰, 柄谷行人, 前田英樹, 1996/04/01)

(事典項目執筆)「ドゥルーズ」(『カント事典』弘文堂, 1997/12/30)

(書評) 篠原資明著『ドゥルーズ』(日仏哲学会『フランス哲学・思想研究』第3号, 1998/09)

(事典項目執筆)「ドゥルーズ／ガタリ」(『20世紀を震撼させた100冊』出窓社, 1998/09)

(書評) ジル・ドゥルーズ著, 宇野邦一訳『褻』(『週刊読書人』第2667号, 1999/01/08)

(事典項目執筆)「ガタリ」,「ドゥルーズ」(弘文堂『フランス哲学・思想事典』1999/01/30)

(報告)「ドゥルーズ会見記」(『日本翻訳家協会会報』No.168, 1999/06)

(報告)「ドゥルーズと哲学」(早稲田大学哲学会『フィロソフィア』No.87, 2000/03/25)

(書評)宇野邦一著『ドゥルーズ流動の哲学』(日仏哲学会『フランス哲学・思想研究』第7号, 2002/09/01)

(書評)江川隆男著『存在と差異』(『週刊読書人』第2515号, 2003/12/05)

(対談)「時間の総合か, 時間イメージか」(『現代思想』VOL.36-15, 共著 江川隆男 2008/12/01)

(書評) TAKASHI SHIRANI(白仁高志著)《Deleuze et une philosophie de l'immanence》L'Harmattan, 2006 (日仏哲学会『フランス哲学・思想研究』16号, 2011/09/01)

(評論)「生ける木田元」(『現代思想』Vol.42-14, 2014/10/1)

(書評)小野紀明著『西洋政治思想史講義』(『図書新聞』第3224号, 2015/09/19)